

今後、白齒の發見さるゝことあらば明瞭になるであらう。何れにしても石川・宮竹兩氏が捨て去られんとした化石を聚集し、之を保存されたことに對しては謝意を表する。(完)

## カナダのヴィクトリアと其附近

槇 山 次 郎

今夏六月一日より三日まで英領コロンビア州の首府ヴィクトリアで第五回太平洋學術會議の一部が行はれた。會議は五日以後十四日までヴァンクーヴァーに移つて續行せられた。其後で旅行がありロッキーマウンテンを越してアルバータ州の方まで行つたが其時の事や會議の模様等は別に報ずる事として此處ではヴィクトリア附近で見聞した事の中から抜書して御目にかける。

船の都合で私は會の始まる十日前にヴィクトリアに着いた。日本から參加した多くの會員は郵船會社の船で早く出發されシアトルに滞在さ

れた。行を共にするを得なかつた私は唯一人米國郵船のプレジデント・クリーヴランド號に五月十三日に横濱で乗船した。乗つて見ると意外にも同會議に行かれる山本一清博士が居られた。博士は他の船の筈であつたが急に昨日になつて此船に變へられた由にて幸にも同行が出来嬉しかつた。船は一日に四百四十哩の速度で走つたが、横濱を一時間も後に出帆したカナダ太平洋汽船のエムプレス・オブ・エーシアに途中で追ひ越された。それでも二十二日朝早くヴィクトリアの港外に到着し、米國汽船の太平洋横斷

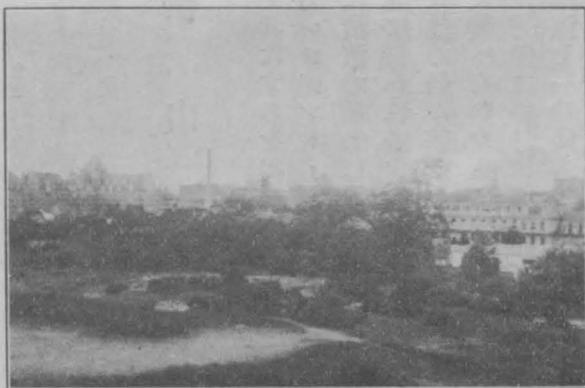
に最高速度のレコードを造つた。船中では毎日夜の時間が四十分づゝつめられた上に高速度を出した爲と、船が舊式な爲と、風波の強かつた爲との重つた理由で絶えず騒音を發し睡眠を妨げられた。五月十九日には東半球から西半球に入り、二十一日の夕方には東方に英領コロンビアの山を見出した。翌朝目をさますと、すでに港外に假泊して檢疫を待つてゐる。

先に到着したエムプレス・オブ・エーシア號が唯一の棧橋に着いてゐるので我々の船は二時間程待たされた。南には米國ワシントン州のオリムピック山が眞白い雪を頭に冠つて見える。其下の狭い海岸平野は霞に包まれてゐるが、何か工場のある町でもあるか煙突の二三本見えるのがある。東の方はピュジェット・サウンド (Puget Sound) の入江が深く入つてゐるあたり水平線を破つてレーニア火山の頂が東京から見た富士山位には見え、稍北にはペーカー火山が同じ位に見られた。ヴァンクーヴァー島は深い森林に被

はれ一寸樺太の海岸に似た趣がある。十時にやうやく上陸した。移民官の役所に行き旅券にス

第一圖

ヴィクトリア市中心部



タムプをしてもらふ。棧橋の附近はヴィクトリアの郊外で淋しい。移民役場の地面には花崗岩のルンドヘッカーがあり表面には氷河の擦痕が

美事に残つてゐる。此等の岩を綴つて美しい花が咲いてゐる。其名は知らないがいづれ其道の人に段々に聞く事にしやう。

波止場から町へ電車に乗る。アメリカの錢より持たなかつたが立派に通用した。勿論とる方に損はないからである。まもなく町へ出た。人口六萬の小都會であるから、うっかりしてゐる間につきぬけて反對の側の淋しい方に來かかつた。急いで下りて町を歩きながら山本博士は前に泊られたホテルを探された。やつと見つかつて先づ部屋に通り小休みの後再び町に出て地圖を求めた。さう此上は「矢でも鐵砲でも來い」地圖があつたら決してもうまごつきはしない。私の豫定したエムプレスホテルは直に判つた。非常に大きな宮殿の様なホテルであつた。やゝ恐々に入つて部屋をとる。

翌二十三日買物をすませてからゴーチ公園に行く、電鐵會社の經營でメリケン松として知ら

## 第二圖

ゴーチ公園のメリケン松林

れたダーグラス・ファアの原始林をそのまま公園にしたものだ。公園の所までヴィクトリア港の入江が狭くなつて入つてゐる。潮の干満には狭



い所に激流が生じ上潮には凄<sup>アガシホ</sup>い逆流が見られる。公園の中に日本茶園がある。日本風の庭を造り亭を置き日本人が茶屋を營業してゐる。此處の主人は三十年もカナダに住み造園業・日本植木販賣業をして知名である。ヴィクトリアの町に日本人は少いが支那人は多い。成功者は殆んど

無く、滿洲事變以來兩人種は絶交同様である。ホテルのベル・ボーイ(ホテルの入口に居り客を部屋に案内したり種々の世話をする役)は日本人で其下に使はれてゐる掃除人夫は支那人である。日本人・支那人の移民のカナダに於ける一般社會的位置はほゞ此ホテルの役目が代表的に示してゐる如くである。即ちホテルの帳場・食堂等には東洋人を用ひない。

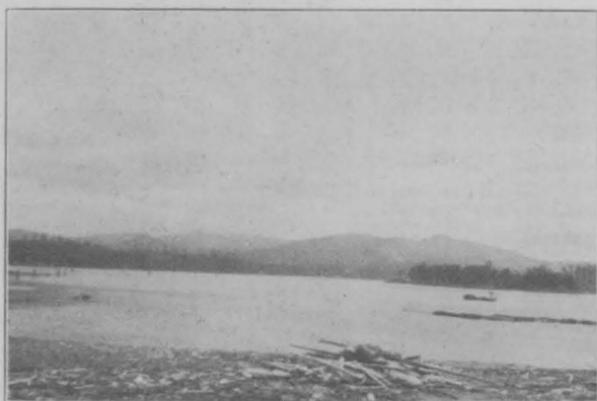
ゴーチ公園の散歩を終りビーコンス・ヒル公園に行く。ホテルの南から海岸にかけてある市營の大公園で美しく手入されてある。所々にランド・ヘッカーの岩があり、原始林が残されてある處もあつた。海岸には氷河作用の跡が明白に露出してゐる(後に説明する)。二十四日は英國の祝日で總てが休みになつた。私は郊外のアプランドに散歩して入江の貝類を採集して一日をすごした。夜は花火が宿の前で上り寝たまゝで目を樂しませた。此花火は日本製品であるとの事で國で見るのと變りはない。

英領コロムビア政府を訪問し林業部長ケーヴァヒル氏が種々有用なる文献を呉れた。政府の建物はホテルの向の丘の上にある。前庭は芝生に所々に花を咲かせ美麗に出来てゐる。政府の横に博物館がある。館長のケルモーデ氏に會ひ種々の話の後に同氏はやほら立上り棚の上から古びた額と箱とを出して示された。見ると箱の中には我國の紅綬褒章第五號があり、額中には其證書がある。明治十六年に青森縣下陸奥國東津輕郡青森の田中長次郎外十一名の漁夫が根室沖に出漁中難船したのを英國汽船タイガーが通り合せ救助してヴィクトリアに連行し、次航海に故國に送り返した功績に對する章である。館長のニュービー氏は館長の伯父で當時幼かりし館長は此等の遠來の珍客と非常に親しんだとの事である。此十一名の漁夫はヴィクトリアに來た最初の日本人であらうと語られた。しかし石器時代遺跡中に屢々日本製らしき陶器破片を見出す事があるので白人渡來前のヴァンクーヴァー

島に日本漁夫の漂着したものが相當にあるのではないかと思はれる。土人は白人に接するまで石器を使つてゐたのであるから此地の石器時代

### 第三圖

スーク灣を南より見る



は極めて近代まで續いてゐたと考へ得る。

二十六日八時に政府林業部技師バレス氏が來

カナダのヴィクトリヤと其附近

られ自動車にてスークに案内される。スークはヴィクトリアの西北にある一寒村で南海岸に沿ひ第三紀層が發達してゐる所で一度見たいと思つたところである。ヴィクトリアを出ると道は暫時の間先日遊んだゴーチに沿ふてゐる。三哩程でヴィクトリア港の一つ西にあるエスクァイモルト港の入江の奥部を通過する。七哩先で（道程は一哩ごとに宿屋があつて英國風の家が立ち何哩家の名稱があつてすぐわかる）道は分岐し、一は島を縦貫する幹線で北に向ふが一は西にスークに通ずる。此より侏羅紀及び第三紀の火山岩の山路にかゝる。谷は氷河の浸蝕により深くはないがU字形をなし、原始林は晝暗きまでに發達してゐる。十七哩家に達するとスーク灣が見られる。此海は恰度天ノ橋立の様な砂嘴で口を半閉された深く入りこん灣である。少しの間灣奥の水邊の崖上を道は傳つてゐるがまもなく灣の西側即ちスークの村に達する。スーク一帯の海岸の低い丘陵はスーク層と稱せられる第三

第四圖

スーク層化石産地と其斷層



川口に行きスーク層の化石を採集する。

スーク層の名はメリアムが一八九六年に調べて命名したものでヴァンクローヴァー島の南海岸に沿ふて分布してゐるが、他の地方への續きは知られてゐない。ミュール澤附近で石油の試錐をした時に千五百呎にして下底に達したといふ。下部には粗悪の石炭を含んでゐるが上部は主に海成の砂岩より成る。ミュール澤川口より西の海濱の露頭では夥しい貝化石が砂岩中に含まれてゐる

紀層よりなつてゐる。先第一にベルベディアといふホテルに荷物を置き灣の岸に露頭を検する。主に砂岩で不良の植物化石が含まれてゐる他あまり面白い事はない。現生の貝を拾ひまた植物に就き案内のバレス氏に質問する。ホテルで晝食したら *Proto-thaca staminea* のスープが出たのは嬉しく甘味しく食べた。午後ホテルの主人の案内で西方六哩のミュール澤 (Muir Creek) の

第五圖

スーク海岸の氷成土



## 第六圖

スーク層下部の礫岩



斧足類は四十種、腹足類は三十種程あり他に珊瑚類等が少々知られてゐる。アーノード、クラーク、ヴォーンの三學者の研究で本層は上部漸新世の成生と考へられ、アメリカ側の相當する地層との對比が種々試みられてあるが、カナダの學者中には本層が中新世であるとの考へを持つ人が多し。最顯著な化石は *Agasoma acuminata*, *Molopophorus newcombei*, *Thais cornwalli*, *Mytilus sammamishensis* 等である。

カナダのヴィクトリアと其附近

此等の化石を充分に採集してホテルに歸る。夜は主人と話をする。フランスから移住したといふ事で人相の割に愉快な人物であつた。晝にミュール澤まで同行した若い男女は夜になつて出發して去つた。泊り客は私一人になる。ホテルを包む原始林の夜氣は凄みがある。五月末といふに火をたき暖をとりながら異國の旅宿に主人と物語つた事は一生忘れぬ思ひ出とならう。

次の日はスーク灣の入口附近を歩き同じ地層を見學した。此附近の海岸には氷河成礫土が露出してゐる。擦痕の着いた漂石は甚稀であるが、大小不撰の礫が岩粉の中に散布してゐる有様は我々には珍しいものである。午後自動車を借りヴィクトリアに歸る。二十八日にはトルミ山に散歩する。氷河に蝕磨された圓頂丘で氷河下流側には氷河河成の圓礫砂層が沈澱してゐる。三十日にはシアトルから畑井團長を始め山根教授・千谷技師・坪井教授・小倉博士の地學

關係の日本代表が來着せられ、急ににぎやかになる。三十一日には會議の方でスークにエッキ

をふりまはした。此日には植物學側の代表が加はり樹木の名を大分覺えたが今では忘れた。日本からは林學の植木博士が加はり大に活躍された。化石をまた澤山採集した。歸つてから調べると欲しいと思つた主なものは大概あつた。此日の指導者は元コロムビア州副長官のコンネル氏でスーク層からデスモスチラスを發見した特殊の地質研究家であつた。

六月一日から會が始まり其間にも午后あちこちエキスカージョンがあり有名な世界第二と稱するカナダ國立天文臺や、美しい花の咲き亂れたブッチャース庭園等を見たり、ウィクトリア市郊外の地質を見たりした。

カナダ及び米國の西部は東と西の側に山地帯があり其中間は内部高臺を形成してゐる。此西側の山地帯が太平洋岸の縁をとつてをり、英領コロムビアでは一の平行な山脈より成つてゐる。之を縦横に切る大小の構造谷があり其地形は洪積世の氷河作用により變形を受けてゐる。

## 第七圖

ウィクトリア北部トルミー山。左手が北にて氷河の上流



スカージョンを出してくれる。オーストラリアと日本の代表で大形のバスを一臺買切り日歸りでミュール澤に行く。私は二度目なので大に通

元の古い谷は氷蝕で深められた後に沈水して  
フィヨルドをなしてゐる。二の平行山脈の間に  
も海が侵入してジョージア灣をなしてゐる。之  
は即ちコロムビアの瀬戸内海で南はワシントン  
州のビュジエット・サウンドに續いてゐる。ジョ  
ージアの内地で本土と絶たれた西側の山脈の一部  
がヴァンクーヴァー島となつてゐる。

本島は主として變質した火山岩と水成岩より  
成り所々に不規則な花崗岩の噴入したものを  
見る。東西兩岸には白堊紀第三紀第四紀の水成岩  
層があり、變成岩・花崗岩の磐上に不整合に位  
置する。變成岩は主に中生代の岩石が變たもの  
であるが古生代のものも少し知られてゐる。中  
生代下部の岩石をヴァークーヴァー群と總稱し主  
として變質せる基性火山岩より成るものであ  
る。東海岸の白堊紀層はナナイモ統と稱せられ  
始新世には變動を受け、火山岩に貫かれた。始  
新世後の第三紀に準平原化して所々にモナド  
ノックを残した他は低平な山地になつた。氷河

カナダのヴェイクトリアと其附近

## 第八圖

ヴェイクトリア市南海岸

下の岩磐表面に氷河の擦痕あり。上に氷成礫土あり。



期には大陸氷河に蝕磨され圓い山形が多くなつた。

ヴァンクーヴァー島の氣候は大洋的である。冬期には比較的暖かく、夏には比較的涼しい。冬期

にはアレウト列島に發生する低氣壓が多く雨がよく降る。太平洋の濕氣ある風が西側に水氣を多く運ぶが東側では乾燥してゐる。西岸では一年間の降水量が百吋を越す所が少くないが、東岸では三十吋以下の所が多い。

ヴィクトリアは州の首府である。州の主部は大陸にあり、前記の東側山地帯までのカナダが英領コロムビアとなつてゐるが首府は州内最大の都會たるヴァンクーヴァー市になく、島の南端にある小さい港たるヴィクトリアにあるのは妙である。地圖を出して見れば解る様にヴィクトリアの位置は陸地続きでないにせよ、米國ワシントン州に包圍せられた位置にある。此の如き地理的關係にては米加兩國が一朝戦ふ事ありとすればコロムビアは直に米國に併合せられてしまふであらう。永遠の平和を確信するにあらずば可様な首府の選び方はない。實際コロムビアは人口が極度に稀薄であつて到底米國に對抗し得べき國ではなく、其風俗習慣でも殆んど完全に

米國化してゐると言つてよい位である。しかし首府であるヴィクトリアは其名稱が示す如く最

## 第九圖

ヴィクトリア市住宅の一例



英國風の濃い所である。氣候は英國に酷似し英國の野生植物は良く此地に着生發育する。人も

